

令和5年度鳥取市自動運転バス実証運行【事業計画】

1 目的

- ①市民や事業者へ自動運転技術を体感していただき、将来的な自動運転の社会実装に向けて地域における自動運転の受容性を高める。
- ②公共交通の運転手不足を自動運転技術により補うことで市民生活を支える公共交通の維持確保に繋げる。

2 取組内容

バス乗務員の確保が困難になっている中、市街地を運行する循環バスについて、将来的に自動運転化へ移行することをめざして実証実験を行う。

実証実験を通じて、市街地における自動運転車両の運行に関する課題を検証する。

3 事業主体

鳥取市

※運行事業者:日ノ丸自動車株式会社、日本交通株式会社

※運行管理者:WILLER 株式会社

※車両管理者:株式会社ティアフォー

※鳥取市次世代モビリティ推進会議において実証結果を検証する。

4 予算額

80,000 千円

◎財源:国庫補助金(地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転実証調査事業))
(補助率 10/10)

5 事業期間

令和 6 年1~2 月

運行内容	運行期間・運行日数
準備運行	車両調整及び準備運行:1月22日~2月2日(土日除く) 計10日間 オペレータートレーニング:2月5日~2月12日(土日祝除く) 計5日間
試乗運行 (関係者・一般)	2月15日~2月25日(週2日程度運休予定) 計9日間 ※予備日:2月26日~2月29日 計4日間

- 6 運行路線 鳥取市 100 円循環バス「くる梨」緑コースの一部
 (鳥取 BT→若桜街道→鳥取城跡～県庁～若桜街道～鳥取 BT)
 ※鳥取市自動運転移動サービスロードマップをふまえ、
 「市街地(鳥取駅～城跡周辺)」をモデル地域とする。



- 運行時間 9:00～16:30
 - 運行便数 8便/日
 - 運賃 無料
- ※荒天時は運休することがあります。
 ※計画が変更となる場合があります。

【実証コース設定の考え方】

- ・市街地運行における課題の抽出
- ・多くの市民、事業者が自動運転を体験することで社会受容性を向上
- ・遠隔監視を含めた Lv4に近い自動運転技術の導入検証

7 使用車両

車両タイプ	Minibus (ティアフォー製自動運転 EV バス) 1台
自動運転レベル	レベル 4 相当(今回の実証は有人運転のためレベル2で運行)
車両定員	25 人(客席 15 席+運転席 1 席+立ち席 9 人)
試乗枠の定員	10人 (WILLER 等の乗車スタッフを除く座席)
運行速度	実証時速度 35 km/時 (最高速度 70 km/時)



写真：(株)ティアフォー提供

8 技術的な事項

①遠隔監視システム概要

- 周辺状況確認用のカメラ 7 台及び車内監視用カメラ 1 台を設置。
- ティアフォーが開発する「Autoware Drive」を利用して通信し、遠隔監視スペースのモニターに車載カメラ映像や車両情報を表示する。
- トラブル等があった場合には遠隔監視システムより車内との通話が可能。
- 上記に加えて、運転席無人でのレベル4運行のため、また運行管理に必要な追加機能を意見集約する。

遠隔監視UI (Autoware Drive)



※イメージ

②アプリ概要

定時定路線バスの自動運転バス実装を見据えた予約及び乗車サービスの実証

- ・自動運転車両が当面着席のみの運用となり、立ち席有りの車両に比べ、座席数が限られるため、非予約乗車の運用に加え、確実に乗車できる予約乗車の実証を行う。
- ・ユーザーが MaaS アプリで本実証路線の乗降場所を選択して予約し、簡単便利に乗降できるようにする。尚、本事業では、MaaS アプリにおける定時定路線バスの事前予約機能を開発し、デモ的に試乗者に体験してもらう予定。